

出羽の虎将 最上義光



時は戦国の世。混乱の時代に、自分が生きる土地を愛し、民を愛し、出羽国に平和と安定をもたらし、現在の山形市の基礎を築いたのが、山形城第11代当主「最上義光」である。山形城の城郭や城下町の整備をはじめ、最上川交通路の整備、さらには庄内平野の開発など、彼の偉業は多方面にわたり、今もなお山形地方に大きな影響を及ぼしている。その名は全国的にあまり知られてはいないが、山形の地を語るに彼の存在を欠くことは出来ない。

長谷堂合戦



慶長5年（1600）、天下分け目の戦い「関ヶ原の戦い」が始まった。時を同じくして出羽を舞台に始まったのが「慶長出羽合戦」奥羽の関ヶ原とも呼ばれる長谷堂合戦である。豊臣方の西軍 上杉景勝の重臣 直江兼続は2万余りの軍勢を率いて、徳川方東軍の最上義光を討とうと山形を攻めてきた。最上軍はわずか約五千余り（諸説あり）。上杉の軍勢は中部・北陸でも連勝を重ねた百戦錬磨の強力軍。勝てる見込みは非常に薄かったはずである。畑谷城を落城させた直江軍は勢いに乗って長谷堂城へと攻め入ってきた。義光はこの城を守るために全力を挙げる。直江軍は3回の総攻撃をかけるが、激しい攻防戦が約半月も続いたころ、上方の戦場関ヶ原では、東軍徳川方の勝利となりその知らせは、出羽合戦の両軍のもとにも届いた。両軍ともに一步も譲らぬ合戦の最中、直江兼続は西軍の敗北を知ると、陣を引き払い退却していった。武勇・学問ともに優れ人望厚い直江兼続の潔い退却は見事なものであったと義光は感心したという。

長谷堂合戦ゆかりの地

① はせどうじょうせき 長谷堂城跡 しろやま (城山)



山形城の西南約7kmに位置し、標高227m、比高約85mの天然の要害に恵まれた山城。山形城西方の戦略上重要な支城で、長谷堂合戦の際には、最上家家臣の智将志村伊豆守光安が守将を務めた。直江兼続率いる上杉軍2万人に包囲されたが、半月にわたり1千人の少数で頑強に抵抗し城を守り、少なからぬ損害を上杉軍に与えた。



◎ はせどうかんのん 長谷堂観音



長谷堂城跡内にある長谷堂観音は、最上三十三観音の第12番札所として参詣者が多い真言宗醍醐派の古刹。本尊は行基作の十一面観世音菩薩で、高さ1mの木造御前仏の胎内に納められ秘仏となっている。

もんどづか はせどう
②主水塚（長谷堂）



剣豪で直江の武将上泉主水泰綱が壮絶な討死を遂げた所。合戦後、村人たちが主水をはじめ両軍の戦死者約 200 余人の供養を続けてきた。

かもん ひ
③掃部の碑



保春院（最上義光の妹義姫、伊達政宗の母）の警護役として仕えた武将加藤掃部左衛門清次の碑。清次は親友江口光清が畑谷城で上杉軍に討たれたことに憤激し、長谷堂合戦に参戦したが、長谷堂城の北方で戦死。

ゆのめ ひ
④湯目の碑



伊達政宗の命により来援し、遅沢川付近で上杉軍と奮戦討死した伊達家家臣湯目加賀守の碑。

せいげんじ
⑤清源寺



内陸では最大のスケールを誇る朱塗の大山門、室町時代の
大梵鐘楼堂がそびえる曹洞宗
の大寺。長谷堂城主志村伊豆
守光安の牌所となった寺院。
最上家の武将で、志村伊豆守
の後の長谷堂城主の坂紀伊守
の墓所。

な お え や ま し ろ の か み ほ ん じ ん あ と
⑥直江山城 守 本陣跡



直江兼続が長谷堂城を攻める
際、半月の間、本陣を構えた場
所。

も ん ど づ か か し わ ぐ ら
⑦主水塚 (柏倉)



日向山の南東麓にあり、直江の
武将上泉主水泰綱を埋葬した
場所。

かしわぐらはちまんじんじゃ
⑧ 柏倉八幡神社



山形地方の古社。退却する直江軍によって焼かれたが、最上義光は戦勝の報恩に社殿を再建した。

ちょうせんじ
⑨ 長泉寺



曹洞宗の寺院。前身は白鷹山の山岳信仰が盛んだった頃の真言宗の寺といわれている。長谷堂合戦の時に直江軍によって焼き払われた。その後、寺は「門伝館」の跡に移転再建された。

かいりゅうじ
⑩ 皆龍寺



真宗大谷派の寺院。長谷堂合戦の時に直江軍によって焼き払われた。その後、寛永年間頃、処刑場であったこの地でキリシタン宣教師が処刑され、その供養のため、寺が現在地に移転された。

と か み や ま
⑪ 富神山



直江軍が最上軍の拠点である山形城を攻める際に、山頂から眺めようとしたが、城には霞がかかって全く見ることができなかった。

10日待っても霞が晴れず、その間に関ヶ原での石田軍敗北の報が入り、上杉軍は撤退を余儀なくされた。そのことから、この山を十日見山（とかみやま）、そして山形城を霞ヶ城（現在の霞城公園）と言われるようになったと伝えられている。

じ ふ く じ
⑫ 地福寺



真言宗の古寺で最上家代々の守護寺として栄えた。長谷堂合戦の時に直江軍により焼き払われたとされている。観音堂の十一面観音は、行基作と伝えられている。

え ぐ ち ご ひ よ う え あ き き よ は か
⑬ 江口五兵衛光清の墓

畑谷城主の墓。直江軍が2万の大軍をもって畑谷城を攻め寄ってきた時、わずかの手勢で死守する覚悟を決めて戦ったが、江口父子は自害して落城した。

むかいはちろうざえもん はか
⑭向田八郎左衛門の墓

畑谷城を守れとの主君最上義光の命を受け援軍として畑谷城に登ったが、時すでに遅く、落城の後だった。畑谷城落城の報を城主に伝えるべく、鬼越まで戻ってきた時、霞と煙にけむった山形城を見て山形城も落城したものと勘違いし、山形城の見える鬼越で自刃した。

ながおかたてあと
⑮長岡楯跡



狐越街道からの上杉軍防備の要地。9月30日直江軍が退却する際、最上軍の追撃を受け柏倉中林山や富神山東麓地帯で大激戦が展開され、両軍共に多くの戦死者を出した。その夜直江軍はこの長岡楯に宿陣した。直江軍の軍奉行溝口左馬介が柏倉中林山の戦いで重症を負い、ここで死没した。その時、左馬介の首を洗ったと言われる井戸が首洗い井戸である。

かとう かもんざ えもんきよつぐじゅうきよ
⑯加藤掃部左衛門清次 住居

最上義光公の家臣で、保春院（最上義光の妹義姫）が悪戸部落に住まいした時、その守護役として悪戸局屋敷の前に居住した。

ふるだてじょうあと
⑰古館城跡



最上義光が米沢上杉軍防備のため築いた城。

はたやじょうあと
⑱畑谷城跡



長谷堂合戦の際に畑谷城主・江口五兵衛光清は、山形城主・最上義光からの合流指令を断り、城主として城を守り続けた。江口を高く評価していた直江兼続からは上杉勢への協力を勧められるが、それも断り南部山麓部の鶉川をせき止め水堀として備えを固めた。9月12日から攻防戦が始まり、翌13日は水門が破られ二時(4時間)の攻防戦で落城した。

畑谷城跡は、研究者による全国的視点から「戦国期ならではの遺構を良好に保つ三十の城址」に選出されている。東北地方では、青森・浪岡城、会津若松・神指城、そして、山辺・畑谷城が選ばれている。現在、畑谷城址愛護会により管理・保護されている。